

## 事業概要書

事業名	気仙沼大島復興マラソン大会（気仙沼大島ランフェスタ）開催による地域活性化事業				
開始日	2012年3月1日	終了日	2012年5月31日	日数	92日
団体名	気仙沼大島ランフェスタ実行委員会				

事業費総額（税込）	3,000,000円
-----------	------------

事業目的	<p>被災地である気仙沼大島（大島）において、島民が主体となったマラソン大会を開催することで震災後離れ離れになっていた島内の融和を図り、活力の失われていた島に活気をもたらす。また、島の大きなイベントであったマラソン大会を、今後は島民が主体となって継続的に開催していただけるための仕組みを構築する。そして、今回の大会を通して県外の参加者と大島の交流を醸成し、地域内外から人が集まり活気溢れる大島の再興を目指す。</p>
事業全体の概要	<p><b>【団体概要】</b>          気仙沼大島ランフェスタ実行委員会は、大島観光協会、大島地区振興協議会、自治会、婦人会など島の住民代表によって結成された任意団体である。実行委員会の下には事務局を設置し、実務は事務局が中心となって行っていく。</p> <p><b>【背景】</b>          気仙沼大島（大島）は、気仙沼からフェリーで約20分の場所に位置する人口約3,200名の離島で、島の主な産業は漁業及び観光業である。島内には十八鳴浜や小田の浜海水浴場をはじめとした観光名所が点在し、震災前には島の魚介類や自然を求める観光客が大島を訪れていた。中でも、毎年4月の第3週目に開催されていた「河北新報気仙沼つばきマラソン」（以下、つばきマラソン）は、河北新報が主催する過去28年間続いた歴史あるマラソン大会で、この時期には県内外から観光客及びマラソン参加者が多数大島に集まり、島民総出で大会を盛り上げる大きなイベントとなっていた。</p> <p>しかしながら、昨年3月11日の東日本大震災により、大島は広範囲に渡って甚大な被害を受け、震災後約11ヶ月が経つ現在でも漁業及び観光業の復興の目処は立っていない。「つばきマラソン」においては、昨年（第29回）に引き続き、今年も大会の開催中止が決定した。2年連続の大会の中止に島民の落胆は大きく、大会中止という事実が復興への道のりの遠さとして島全体に暗い空気をもたらしている。このような状況の中、島内では島の活性化及び再興となるきっかけとして、そして大会の開催自体が島民にとって復興に向けた大きな希望となるため、今年も「つばきマラソン」に代わる形でのマラソン大会の実施を求める声が強くなっている。</p> <p>また、震災以前から今後の継続的な大会の運営に向け島民が主体となって運営していく体制への切り替え求められていた。そのためには、今までは島外に頼っていた企画・</p>

運営面の大半を大島の住民で実施する必要があり、大会からの収入で経費が賄えるような仕組みづくりが欠かせない。

そのような背景から、今回パートナー協働事業として、大島主体による運営体制の構築と、継続的な大会実施に向けた仕組みづくりに重点を当て、「つばきマラソン」に代わる新しいマラソンイベント実施を支援する意義は大きい。

#### 【事業内容】

大島住民が主体となって取り組む復興マラソンイベント「気仙沼大島ランフェスタ ～楽しむことが支援になる～」(気仙沼大島ランフェスタ)を2012年5月27日に実施する。同マラソン大会においては、今後のマラソン大会継続を視野に入れて島民主体での企画／運営体制づくりを支援すると共に、大会経費の面でも持続的な運営が可能となるような仕組みの強化を行う。大会を通して「大島の強さ、そして美しさ」を多くの人に知ってもらえる機会を創出し、今後は地域内外から人が集まり活気が溢れる大島の実現につなげていく。

#### ①気仙沼大島ランフェスタの企画と運営体制構築のサポート

以前の「つばきマラソン」においては、河北新報社のスポンサーのもと、気仙沼市陸上協議会が主管として大会運営を担当しており、大島島民においては大会当日の運営協力に参加するという位置づけであった。また、大会参加者の大半が地元を中心とした近辺地域からの参加者で、マラソン大会は定例の市民大会として内容を工夫する必要性が低かった。しかし、今後島内でのマラソン大会実施を実現していくためには、島民が主体で企画・運営を行っていくことが求められ、同時に今後の継続的な運営を目指し収益性も上げていくためには、大会と島内の観光資源を結びつけ、参加者とのコミュニケーション方法、PR、サイドイベントの実施、物品販売などを工夫して行くことが必要である。

そのため、今大会においては、企画・運営、また外部発信への仕掛けづくりに関して、スポーツイベント企画運営の専門業者(アンビションアクト)やこれまで大島にボランティア活動のため社員派遣を行ってきた富士ゼロックス社等からのサポートやアドバイスを受けて、次回大会からは実行委員会だけで大会運営が出来るような体制を整える。具体的には、実行委員会の下に実際の作業を行う事務局を設け、この事務局に対してアンビションアクトが企画の提案、運営面でのサポートやアドバイス、外部PR面での協力などを行っていく。そして島外からの大会参加者がまた大島に訪れたいくなるような大会を創出していく。

#### <大会アウトライン>

実施日時：2012年5月27日(日)10:00～

マラソン競技種目：20km(ハーフマラソン)、10km

マラソン参加者人数（先着順）：1,000名（県外参加者：300名、県内参加者：700名）  
協力：株式会社アスロニア、株式会社アンビションアクト、株式会社サニーサイドアップ、社団法人 TEAM NIPPON、富士ゼロックス株式会社  
企画運営：気仙沼大島ランフェスタ実行委員会

## ②気仙沼大島ランフェスタの実施とイベントの開催

当日の大会実施に際しては、大島島内の学校、自治会、婦人会、商店、宿泊施設などあらゆる住民の協力が欠かせず、一方で警察署や消防署、市役所とも連携して当日の運営を行っていく必要がある。さらに、内部外部からの当日ボランティアの呼びかけと調整、気仙沼側の駐車場の確保、建設業者との道路工事日程の調整など大会当日に向けて行うべきことは多い。それらの業務に当たっては、事務局がタイムラインや役割分担を作成し、各関係者と密に連絡調整を行いながら当日の運営がスムーズに進行出来るよう働きかける。特に大会当日用にはスタッフマニュアルを作成し、各事項の担当者および責任者、スタッフ間の連絡方法、コースと休憩所や救助テントの配置、緊急時の避難場所や避難経路、病人やけが人の救助方法、その他留意点などを明記し、当日多くの関係者が共通の指示に従って行動できるような体制を取る。

加えて、大会前日には前夜祭を、当日にはサイドイベントを実施することにより、参加者や外部ボランティア達が大島の人々と交流し、大島の自然、文化などあらゆる資源を活かして大島の魅力を大会参加者に知ってもらう機会とする。サイドイベントとしては、大島の特産品の販売や屋台（兜焼、その他大島の資源を活かした食べ物）の出店、コンサート、また被災当事と復興の状況を伝えるパネルの展示などを予定している。前夜祭やサイドイベントに関しては、大島の商店会や自治会への参加を促すと共に、企業や有名人などの協力も呼び込むことを検討している。

また、大会参加賞としては草木の苗を配り、それを帰り道に被災した道路沿いに植樹してもらうことで、参加者が被災地のことを忘れず、また継続して大島を訪れたいと思えるきっかけづくりをする。そして、今後の復興に向けて県外からのパワー（笑顔）と島民のパワー（笑顔）が大島に活力をもたらすことを目指す。

### 【期待される効果】

震災後、多方面から支援が入ることで大島の住民同士の協力の機会が少なくなり、島民の気持ちが離れ離れになっていた節がある。当事業の実施は島民が一体となって復興に向けて取り組むきっかけを生み、今後の大島の復興を大きく後押しする力となる。また、県外からの参加者に被災地を見て知ってもらうことは、県外の人々が被災地を忘れることなく、今後も大島の復興に協力していきたいと思える動機につながる事ができる。加えて、島の人との交流、イベント、植樹を通して大島のファンを作り、この先観光客やマラソン参加者が継続して大島を訪れ島に活力をもたらしていくような流れをもたらすことが期待される。

事業内容(事業種別 (コンポーネント) ごと)	裨益者 (誰が、何人)
①気仙沼大島ランフェスタの企画と運営体制構築のサポート <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マラソン大会実施に向けた運営体制の構築</li> <li>・ 運営マニュアルと大会要綱の作成</li> <li>・ 専門家による企画運営に対するアドバイス</li> <li>・ 持続的な大会運営に向けた仕組みづくり</li> <li>・ 参加者募集も含めた広報：ホームページの設置、管理、大会パンフレット・リーフレット作成</li> </ul>	大島島民 3,200 名
②気仙沼大島ランフェスタの実施とイベントの開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マラソン大会を 5 月 27 日に開催</li> <li>・ 前夜祭と当日イベントの企画と開催</li> <li>・ 参加賞の苗木の配布／植樹</li> <li>・ 大会およびイベントに向けた事前準備と関係者間との連絡調整</li> <li>・ 当日ボランティアの募集と調整</li> <li>・ 気仙沼市、警察署、消防署、学校などとの連携</li> <li>・ 当日スタッフマニュアルの作成</li> <li>・ 協力企業へのイベントサポート呼びかけ</li> </ul>	大島島民 3,200 名